

## 「一枚のワンピース、そしてCiao！」

イタリア語文化教室 イタリアサローネ  
代表 繁田<sup>しげた</sup>モンディーニ<sup>ようこ</sup>陽子



住所: 加古川市加古川町溝之口588-1  
比古ビル  
TEL: 079-439-5810

イタリアで暮らした18年間、大好きな国に住めたことは、私の大きな幸せです。現在、加古川商工会議所からほど近くに、イタリア語文化教室「イタリアサローネ」を開き、イタリア語やイタリア文化講座、通訳・翻訳業に携わる毎日ですが、今年にはイタリアのシエナ大学と提携し各種活動を展開してゆきたいと思っています。

私とイタリアとの出会いはかれこれ35年前、1980年夏のことでした。当時オランダに暮らしていたある日のこと、小さな洋装店のウィンドーに一枚のワンピースが目が止まりました。襟元には「made in Italy」と縫い付けられ、私の目は釘づけになりました。「こんなに美しい色と素材を生み出すイタリアってどんな国なんだろう、行ってみたい！」そして翌年には早速イタリアの地に足を踏み入れました。ここでは2千年を経た建造物が未だ生氣をもって息づき、大昔の建物に人が住み、ダビデ像、ガイアの泉、そしてコロッセオを、まるで自分の庭のミニチュメントのように慈しみ愛する一方で、サンマルコ広場では今日の野菜を買い求める庶民の姿があり、改めて街の奥行きに魅了され、人々の明るさに感激いたしました。こんなに偉大なのにさりげなく、美しいのに庶民的、底抜けに明るく、ふと優しさが：人がいるからこそ街、そして歴史なのだ！と痛感いたしました。

一枚のワンピースとの出会いから、私のイタリアへの興味は人・生活・言語へと止めどなく広がり、10年目の節目に、ミラノへ語学留学しマーケッテというタイミングでしたが、新聞求人欄へ一枚の履歴書を送ったことでイタリアの会社に急遽雇用が決まり人生が一転、学生から社会人へ、そして結婚へと一気にイタリア漬けの日々を送ることになりました。

現地での暮らしは多くの人に支えられ、学び多き毎日を通しました。例えば挨拶をかわす大切ですが、知らない人でも知り合っても、相手の目を見て大きな声で笑顔で「Ciao!」、Ciaoの後に必ずしも「お元気?」「いい天気だね」といった会話がなくても、Ciaoの一言は心と心を繋ぐ潤滑油のように、挨拶をした方もされた方もどこかウキウキした気分になれるのです。

Ciaoが連発される場所といえば「Barbours」といって、コーヒー中心のカウンターでの立ち飲みスタイルの喫茶店です。コーヒー文化が根付くイタリアでありながら、世界規模のコーヒーチェーン店が一軒も存在しません。これはイタリア人にとって、Barが単にコーヒーを飲む場所だけでなく、「社交場」といういわばイタリアで育まれた文化で、これを肌でひしと感じたものです。

家庭では最新式の掃除機はありますが、箒と水モップで床掃除、湿らせた新聞紙でガラス磨きが日常で、「手軽で便利」使い捨て」の生活習慣がありがちなのに大きな気づきと学びを与えてくれました。また使い込まれ、くぼみのできた大理石のパスタ台をみても、愛情と誇りを持ち楽しみながらの生活ぶりに、羨ましくさえ感じた私です。

実はマンマの味でこれではないでしょう。2千年以上も前の遺跡と共に育ち、築後数百年の家に家族代々で暮らしてきた彼らは、母親がそうした様におばあちゃんから教わり今日も生き、歴史を紡いでいます。これはとても素晴らしいことだと思います。

「サローネSALONE」、イタリア語で「大きな部屋」を意味しますが、イタリアを通して多くの出会いと交流の場所となることを願い、皆様とイタリアを繋ぐ架け橋となるよう2012年「イタリアサローネ」(ITALIASALONE)を開業しました。常に情熱を絶やさず奮闘努力の日々が続きます。Ciao!